

本部・部会だより

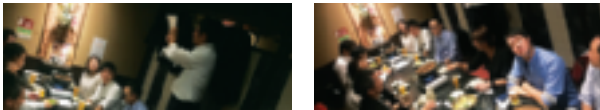
青年部会がボウリングを(10月27日 於:高田馬場グランドボウル)



挨拶:米持部会長 参加された皆さま(ボウリング会場) 始球式:加藤副部会長



優勝:滝口様 準優勝:加藤様 第3位:蓮實様



～～ 結果発表・参加された皆様(懇親会) ～～

《第12回 税の川柳コンクール》

応募作品(172点)から税制税務委員会の役員と理事の皆様にご選考して頂きました。

- ・《中野法人会 会長賞》
インボイス
やっぱりかなり しんどいす
- ・《税制税務委員会推薦による 中野法人会 会長賞》
納税で 未来の世代に 夢託す(TAX)
- ・《優秀賞》
税金で 財布の紐が より締まる
- ・正直に 納めりゃ何も 怖くない
- ・酒たばこ 命を削って 納税だ
- ・師走だけ 駆け込みがちな 「ふるさと」です

第37回法人会 全国青年の集い(山形) 東法連(第4ブロック 租税教室) 音と光のフェスティバル



11月9日(当会から米持部会長始め4名参加)



11月15日 米持部長・吉永副部長が参加(於:愛児の家)



11月18日(於:平和の森公園)

“税の作文コンクール” 入賞作品

公益社団法人 中野法人会会長賞

【税金に託すこれからの被災地】

中野区立北中野中学校 3年 沼田 采華

私の父は福島県出身だ。夏休みに父の地元へ行って、海沿いの道でドライブをした。その時に見たのが、道路と堤防が整備され、その周りには小さな木がバラバラと植えて「表彰式(12月6日 於:区役所内)」ある風景。私は父に言われるまでその景色について何も思わなかった。が、父が言った時、見る視点が変わった。



「昔はここから海が見えたんだよね。でも震災で堤防が高くなって見えなくなっちゃったんだよ。」その瞬間、私は堤防を見て海を想像した。また、「この辺も住宅地だったんだけど、全部流されちゃったんだ。」

と父は言った。私はまた想像した。この辺の家は、きれいで穏やかな海が日常的に見ることができたのだろう。だが、今はただ殺風景だった。

これらのことから、私は何かできないものかと考えた。なぜなら、震災の前までは風景として楽しめた場所がただ被災跡地としてあるだけだからだ。率直に、このままではいけない。

そこで、復興の資金となる税について目を向けてみることにした。まず、津波から身を守るための堤防、仮設住宅らの費用に税金がかかっている。また、インフラの整備、災害公営住宅などのこれからのを過ごす

めにも使われているそうだ。そして、津波によって流れてしまった町の復興もしているそうだ。しかし、私は「町」の復興で終わらしてはいけないと感じた。私が見たあの海のある場所がその殺風景としたあり続けるからだ。

このことから、私は被災地復興の税金の使い方を考えた。なぜなら、私のようにこの場所をどうにかしてほしいと思う人がいると考えるからだ。そのことを実現するために、まず何に税金を使うかを多くの人に共有すべきだと思う。復興庁のホームページには、東日本大震災の復興の予算概算や取り組みが公開されているが、身近で多くの人が見るかというとなかなか難しい。そのため、SNS上に復興する前と後の写真を使い、この場所が税金によって変わったというアピールをしたらどうだろう。その現状を見て、国民が評価できるし、国民らが支払ったお金がどのように使われているのか明確になり税を払いやすくなると思う。

私たちは日常的に税金を払っている。しかし、必ずしも税金の全てが自分の希望で使用されるわけではない。だからこそ、実際にどう使われているか詳細が分からなくては、高額な税金の支払いに疑問を感じてしまうだろう。また、私は税金の支払いを義務的な募金と考える。税金によって実現することは、学校や私たちの暮らしに利を与えたいと思う。そのため、税金をしっかりと払って、訪れた被災地がどうか海を生かしたスポットとなってほしい。